

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ことばって、おもしろいな」 教材名「ものの 名まえ」

2 単元の目標

まとめて呼ぶ名前と個々の名前を比べ、言葉が事物の内容を表す働きに気付ける。注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて話をつなげられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①まとめて呼ぶ名前と個々の名前を比べ、言葉が事物の内容を表す働きに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答している。（A(1)オ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

身近な物の実際の名前と、まとめて呼ぶ名前の違いに気付き、買い手と売り手のやり取りで使い分ける。名前を言うと相手が物を選べることと、まとめる名前で仲間を表せることを確かめる。学習指導要領のA(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)アを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案ではA(1)オを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

実物や教師作成の絵を並べ、上にまとめた名前、下に個々の名前を置く。言葉が出ない児童はカードを示してから声に出す。分類の基準が違う場合は理由を聞き、扱う名前の関係を確認する。おおむね満足できる状況は、注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○身近な物の名前を出し、名前を聞いて何が思い浮かぶか確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○個々の名前を仲間ごとに並べ、まとめて呼ぶ名前を考える。	知①（語句や内容の整理）
	3	○まとめた名前と個々の名前を使った注文を比べ、相手への伝わり方を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○買う役と売る役で、相手の問いに応じて物の名前を言い直す。	思①（発言・学習記録）
	5	○役を替えてやり取りし、伝わりにくかった言い方を直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○まとめた名前と個々の名前の働きを振り返り、教室で使う例を探す。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて話をつなげられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」 【めあて】身近な物の実際の名前と、まとめて呼ぶ名前の違いに気づき、買い手と売り手のやり取りで使い分ける。 〈予想される児童の反応〉 ・ くだものと言っても、どれがほしいか伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」 店の人と客の役を決め、まとめて呼ぶ名前だけの注文から始める。店の人は品物を選べないときに尋ね、客は個々の名前を使って注文を言い直す。役を交代し、相手の言葉を受けた応答で品物が伝わったか確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ くだものと言っても、どれがほしいか伝わらない。 ・ りんごと言うと選べる。 ・ 同じ仲間を集めるとお店の名前を考えられる。	実物や教師作成の絵を並べ、上にまとめた名前、下に個々の名前を置く。言葉が出ない児童はカードを示してから声に出す。分類の基準が違う場合は理由を聞き、扱う名前の関係を確認める。 想定する難しさ：物の色だけで仲間分けする。大きい物の名前を「まとめた名前」と考える。お店遊びの装飾に時間を使い、言葉を使う場面が少なくなる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 注文を受けた人が選べるように物の名前を言い直し、尋ねられたことを受けて応答している。(店役と客役の応答の観察・注文の言い直し)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 同じ仲間を集めるとお店の名前を考えられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「まとめた名前だけで、ほしい物が相手に伝わりますか。どんな名前を言い直すと選んでもらえますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

